

## 中野市教育委員会指定文化財候補調査票

報告年月日：令和4年7月28日

調査者：吉澤政己

報告者：大滝敦士

## 1 種別

有形文化財

## 2 名称

小内八幡神社輪橋

## 3 員数

1点

## 4 所在地及び所有者・権原者

所在地：中野市大字安源寺 権原者：片山 求

## 5 内容

小内八幡神社（大字安源寺）に存在する輪橋である。吹放ちの上屋のある幅1.5m、長さ3.6m、木造の太鼓橋。

## 6 現状

現在、小内八幡神社宮司・片山 求氏が管理している。

## 7 由来・伝来

小内八幡神社に保存されている棟札によると、寄進造営は飯山藩主松平遠江守忠親（のち忠俱）である。寛文5年(1665)に再建され、普請奉行は山川二郎左衛門尉堅門・河藤彦六尉正平、大工は太田半之丞重芳である。

「旧中野県管内附綴六川庁管内 高井郡 神社明細帳原本」（長野県立歴史館所蔵）には、「瑞橋」として見え、「長二間(3.636m)・幅一間(1.818m)・同上屋間口二間(3.636m)・奥行二間半(4.545m)」とある。 ※間=1.818m、尺=0.303mで換算

## 8 保存方法

現在地に所在。

## 9 その他参考事項

天保～嘉永年間（1830～1854）に若宮八幡宮神主岩戸家が窮乏により、若宮八幡宮内の玉橋

を安源寺村へ売り払ったという伝承（岩戸貞彦『中野市若宮八幡宮の歴史』、2013年）があるが、事実かどうかは不明。

#### 10 保護指定についての調査者の意見

輪橋の擬宝珠柱などの様式からみて、寛文5年(1665)の棟札にある橋がそのまま残されていると考えられる。木造の輪橋は市内の神社では他に類例がなく、江戸時代前期の姿をそのまま今に伝える貴重な建築物であり、中野市にとって貴重な文化財である。また、旧片山家住宅主屋（小内八幡神社社務所、国登録有形文化財）・小内八幡神社・小内八幡神社本殿（市指定有形文化財）・小内八幡神社社叢（市指定天然記念物）と一体的に保存・活用されるのが望ましいと思われる。

#### 11 参考文献

信濃建築史研究室・吉澤政己『小内八幡神社 建築史資料調査報告書』（1994）

「旧中野県管内附綴六川庁管内 高井郡 神社明細帳原本」（長野県立歴史館所蔵）



小内八幡神社輪橋